



誠・力・光

令和6年 9月6日

練馬区立北町中学校

学校だより 9月号

生きるための学び

校長 中嶋 雅彦

先日、自動車の溶接を行うロボットに、その技術を教える人間の育成に苦労しているという話を聞きました。「溶接」とは、さまざまな部材に加圧・加熱を施し、一つの部材に接合する加工技術のことです。溶接は製品の加工に欠かせない重要な技術で、自動車や建築、家具、貴金属、時計など、あらゆる製品の製造過程で溶接技術が利用されています。ロボットにその技術を教えようとすると多くの時間を必要とし、表面上はきれいにできていても強度が基準に達しないなどの課題も多くあるようです。

買い物をしても、お金を使わず、電子マネーでのやりとりが多くなり、消費税を8か10%を選んで、お釣りを計算することもほとんどなくなりました。人工知能まではいかなくても、生活での機械の自動化は進んでいます。本校で年2回行う授業アンケートでは、「その教科の授業は、将来役に立つと思いますか」という質問があります。この質問に否定的な回答をした生徒は、すべての教科の平均で19%です。肯定的な回答が80%以上ということですが、「その教科の授業はわかりやすいですか」「その教科の授業には意欲的に取り組んでいますか」の質問に比べると否定的な回答をする生徒が多くなっています。学校での学びの大切さとその意義をしっかり生徒に伝える重要性を改めて考えさせられました。

学習指導要領解説(総則編)には「人工知能がどれだけ進化し思考できるようになったとしても、その思考の目的を与えたり、目的のよさ・正しさ・美しさを判断したりできるのは人間の最も大きな強みである……。このような時代にあって、学校教育には、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている。」と書かれています。本校では、人との関わりを通して、自他の違いを知り、ともに大切にしていきながら自らの幸せを見つけるために必要な学ぶ力を身に付けさせていきます。また、他の人の役に立つためには、自分が学んだことをどのように使えば良いかを考え、同時に、自分らしい幸せを見つけるために歩いて行く力をこの2学期あらゆる機会を通して生徒に身に付けさせていきます。また、時代の要請や変化とともに教育内容や方法を改善することにより、柔軟に変化に対応していく力を身に付けさせる教育活動を計画し、実践していきます。